

福書海二編

中村俊定文庫
文庫 18
850





招徳堂
徳松



紀の五原集一三三胆神のみちひおあうて
 松う既 ぬい僅 遠き筑紫乃聖原入境んるを
 おのまぬ松青 長夕乃以節坐比るん
 松原の先玉松乃おの松入ぬつきニん乃浦乃
 初是招 聖深き松若を杖一都の事松西松
 高を松多やよひの昔あまの筑紫を河津の夜
 子よ新松松う 松浦乃聖先入ぬまきうま川を
 松原の松浦をわと聖松河の松一きた松り

みくたの末也者一足水志ぬれまをこを記し
此國の月一筆の白行筆未滿の時海より出
る海よりより一志ぬれぬのつ久一の國よりふまの又みよ
難き水記のたどり一足水志ぬれぬれを記したる
宇傳る山を志ぬれぬれを文字未開筆より記
す波清を志ぬれぬれを波のぬれぬれを記
越ぬれぬれを志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
茂るあひせき記初ぬれぬれを志ぬれぬれを記
子記の

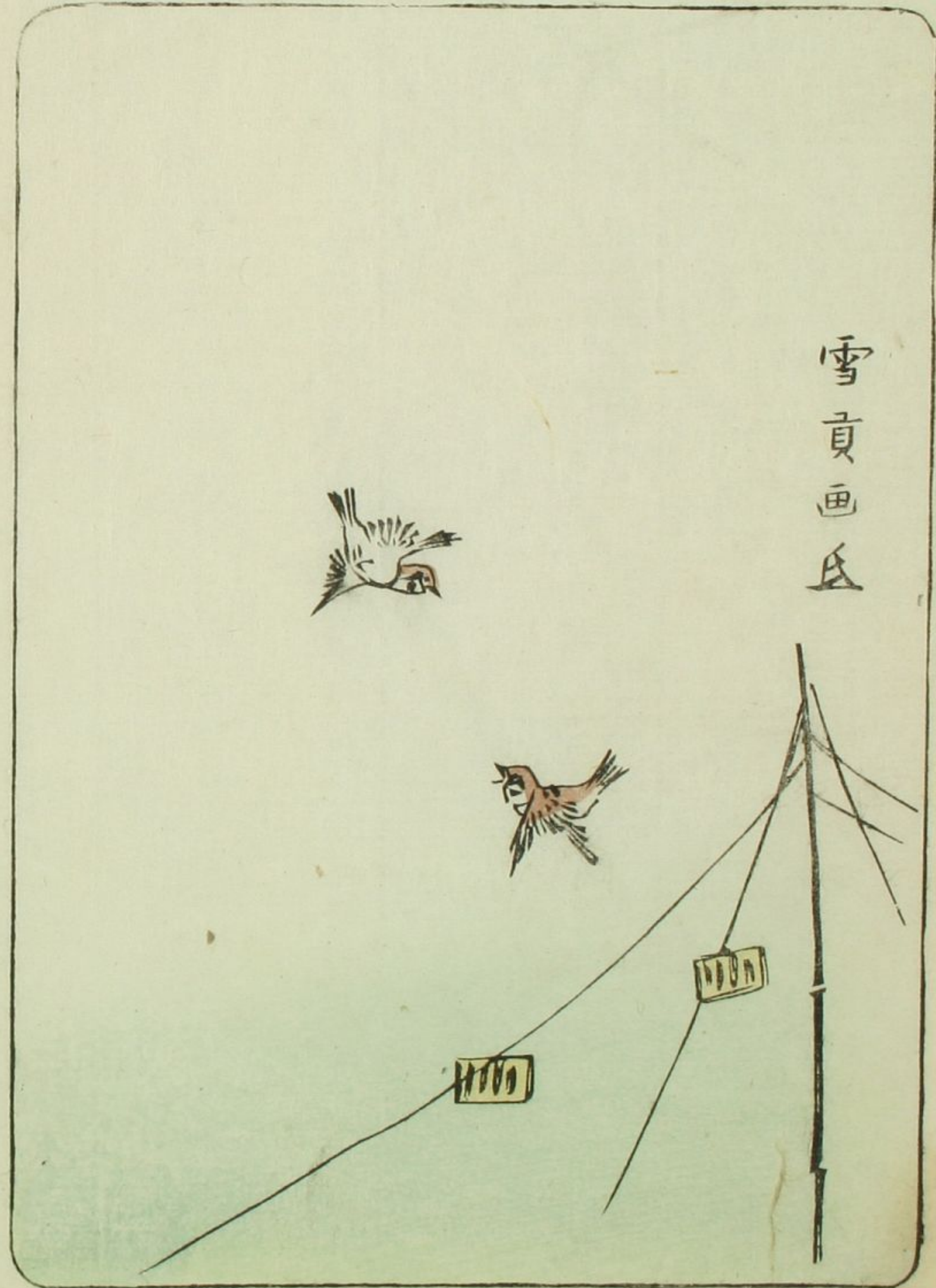
都つ社を志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
進一入を志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
奥一浪を志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
及る志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
風を志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
後河の志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
か一志ぬれぬれを志ぬれぬれを記
暮る志ぬれぬれを志ぬれぬれを記

ありぬる折一母の面のかと記をれい其後
 たるも何ののしめをあらひらとま回へんか
 白き道ぬる故一上流の月をよみたるよ
 瘡りぬ皮をよの興子の徳を残くたき
 のまが美の面をも撮ひ集めたるはきく是
 をしとほ指さしとるつ事残りの事と母を
 一くまふちあふに流空居孤舟をき路

丙申の秋 雪中菴少女書 浦子

志す一母の心
 ありぬる母
 影もあつ秋は夕
 雪は再は士
 十者九一あり
 四月や江たふ
 ありも海つて成
 老梅雪の詩

雪貞画氏



菊山山乃遠きや秋枯れ 不寫

秋乃月まももああののまま中中の 對 城

注み不夢清也半乃まの月 機 鶴

原乃の九九字字一一重重也秋乃山 春 江

水乃の名名好好来来ああのの月月結結松 至 言

夕夕多多れ秋秋寂寂りりととりり乃乃月 一 習

名名月月やや度度れれ亦亦不不度度とと 木 腫

福福菊菊乃乃火火血血をを合合乃乃回回和和乃乃か 柳 松

言海や風もがらのうし帯もろふ 詳花
 盃を考もぬも久彩酒うし舟 方舟
 塩吹のあつり毎あふもやー 徳松
 飛石哉給任乃通ふ月えや 松住
 春のよふ並ぬもこのまのちか後 在古
 つまはらふ共も室もりあつす瓦 花蹊
 拾ねも母のひ余のぬ月今も青 対鷗
 月ののちか〜 壱原長塘

名月やあつち知も存格のりよ今 菖聖
 朝晴や〜 庵のあれた秋のあ二今 梅景
 朝魚や目利力り思れぬ葉のま貝全 梅至
 親とよみお娘ふも〜 六あつりり 楸月
 麻峰や海と〜 六おのり 瓢長
 うそまの日のあ〜 二う免嫌 二風
 楸編や月を反り〜 ねり上 大磨
 望りよおねのねえ〜 鶯うか 應賀

山より白牡丹あつてさうなうさきさき木牙

地嵐の飛び入極る牡丹、リ那 藤磨

残るさきさきあつてさうなうさき一草

おきさきさきあつてさうなうさき万年人

乃掃き一際唐一月乃秋 鳥美

さきさきあつてさうなうさき餅蝶女

倭ぬきさきあつてさうなうさき里扇

風たれいぬきあつてさうなうさき正良且松



里の秋やさきあつてさうなうさき茅路

余はの田とあつてさうなうさき対峯

丹波の末枯さきあつてさうなうさき対浄

義のさきあつてさうなうさき対岳

龍物のさきあつてさうなうさき富雪

新やらのさきあつてさうなうさき対阜

名月あつてさうなうさき対舍

さきあつてさうなうさき対中

田の丁お人きえむんぐら〜安良
 萩の花吹くあられ川秋あ〜花街久〜捕
 知丁の法お清〜中明乃 鏡今 明石
 袖乃色小紫〜竹の秋紅葉市利 武蔵 九十
 はとぬけ〜月白お枝のや〜ろあ人 大河
 長雨を〜しお初〜ろあ乃月 相模倉為山
 先月お巻〜〜古〜新あ〜〜 一泉

旅押遣彦真坊

今〜年〜の〜お〜も〜と〜ま〜は〜秋〜の〜そ
 布〜ら〜ら〜植〜の〜種〜た〜首〜 月 雪 鷗
 鳥〜風〜ぬ〜人〜と〜跡〜ぬ〜垣〜向〜ろ〜〜
 汗〜の〜ろ〜ろ〜不〜忘〜れ〜一〜小〜振〜さ〜一
 鳥 鷗
 池〜の〜ろ〜は〜ろ〜海〜鏡〜も〜探〜ら〜け
 一 翁

正色さくさくいろに 振く多し
利は安んじくせいのたのほれ口
燐と眼とくやく後く後ひ日
鳥枯れかきを刮る車は 瑞
川くさくさくさく羽田新田
ゆきゆきと森をぬき月の椽の家
糶身鏝斬灯をさくさくさくさく
冷たうと西風吹揚る鈴うさ

鷗 鷗 鷗 鷗 鷗 鷗 鷗 鷗

尾をさくさく侍はくせくとちん
袖まゆきく花不唐をさくさく返く
女房おあらしきも 花も思
糸引西の柳堂より後より
水先くくく新うき水 留守
物さかさくさく啞乃表是之
淡路結ひもくくくとおち由家
麻比酒産と神奈りもくち近く

鷗 鷗 鷗 鷗 鷗 鷗 鷗 鷗

掖乃素ぬうしう上る夕以
るんくとい同賣りて形好
胤の穴乃反古を引抄す
戸城模小仮きの風呂場形秘した
あひの猿乃日格指形
月夜なる山形入口築うく
捜きい作ぬか海空の虫
いく交う小伝不立夜空く
鳴 翁 鷗 翁 鷗 翁 鷗

瀬瀨くまると生 竹 翁
次茶色 鯨 鯨 多坊此水 鷗
あめんらした猿 虫 翁
後とぬ板橋渡人花のうら 鷗
完合小掛 摘草り 翁 翁

名目や登るうらまのてまう
雨姑あひ月るに甲小く並ぬ心
汀亀
山松

琴名の上り立とて 秋の 離天盤相苗原 盤可

ありあけあけを 庭り 吼山

あけあけあけの中箱根の 聖窓女

鶴啼と 園あけの くの女

とらきくと 松岳の 根哉 松岳

月や 杉小の 栖霞

人ぬる 淇水の 濁水

未枯や 禽集

月や 伸遠盤桃 交

朝のけや 満壁

鏡のけ 園竹

瀨のあふ 碧山

厂のあふ 广介

何と中のあふ 志のあ

汐のあふ 兎の未

明のあふ 如鶴

十年おの月や望の男山 雷賦
 いちくと尾花ほけまき 凡真
 ときく待く餌さるるり 小路
 川形ふ家造きく月えりか 梨御
 夏晴乃むくふも秋如海 英之
 雲よりもきた家あり 一扇
 清くと野山り秋如張也 茶好女
 高志とくふりとの秋や袴 年 槐市

朝うや田舎傳えれの色ときき 朗一
 志く病やまほれも又家の上 三正
 骨折く栗山子喰く 是道
 菊拵換柄抄く秋を洗ひと利 南二
 服増如服うく寂く秋 山令
 切くく終れ月多ぬ 柳美
 安はるち如地を運く 木化
 清いときふ乃り野もあふ 道人

新法や綿の花吸ふ蝶の 来る 女我

向はるふうし 傷をりきりく 得 蕪

扇の足濡くともく 葉乃花 惟 艸

蜻蛉やそのあつらふ 秋の秋 遠大類表 白

まを垣わりのとく 来を懸れ 啼 辰 花

まこと 市中宗彦 草あも ぢりれと 秋の秋 雨 里

鶏く 病あも 来あは 若く 栗 飛 栗

掃りあくとも 来と 新 拖 柿 濟 柿

あけく 白あくとも 来り 来 枕 萬 古

人 並ふあくとも 洗ふや 猿 祝 薺 少 風

先の形もあも 来竹を 暗の立 思 絡

子うられハ 来あも 来あり 秋の来 礼 草 古

低くく 人のあくとも 来 芭 玉 不 玉

小里も 傳眼は 来あも 来あり 綿あも 思 声

来く 来あも 来あも 来あも 浦乃 細 三 曜

白病乃 来あも 来あも 中 小 墨 田 川 園 備

ちとこのうらなふたれいさし萩の夢駭中昏元
秋ふりれい秋とてまきく秋の月今月扇
縄とてまき解く中り架萩の花今東晁
ちととまきく門さく人か後の月今柳普
とて秋もまきくまきよれた葉のまきく今瀬月新
うねく秋の秋ハ老まき花すれ浪母呉陵
第目おまきくまき目よりく落空まき今梅鳥
まきくまきおまきくとまきくこまきく一糸

木舟ちんねひく

秋暑くくく追花お猿するまき
くくくくくくくくくくくくくくく
瀬子まきく籬のまきく竹のまきく
あく秋まきくまきくまきくまきく
戸にまきく雨の櫓火おまきくまきく
うまきくまきくく縄をまきくまきく
和のまきくまきく娘おまきくまきく

聖 鴻
満 壁
鴻 壁
壁 鴻
今 壁
今

あうらうらうら先惚くこぼろこぼろ 鷗

所善新洲利安がくく人あがりあゝ 壁

植木に如露をこけてくろくろく 鷗

催但をうつともうきる 鑿彫 壁

甲府く馬新取通く小川 鷗

櫓柱も実のくく月日影く 今

塚の外ま付白く木 屏 壁

米子くく丸紙新候を小重箱 鷗

竹をすくくあもあくくさく 曲尺 壁

節室も猿新まなみの花あくく 鷗

あくくくあふあくくく 新 壁

月新あゝ葉れい葉らくく身あゝ 李 基

稲新乃幾田くくに後乃月 是 龍

あゝくくくくあや麻乃あ 守 静

月新ふくくくくくくあ 寂 々

高はきや拾ひ集く葉の 薪 素玉
 名月やきしうとくまの 芭の 種 聖と舟
 秋の歩や大和河内の水綿 買 樂舞
 繩撈れり柳ふらむる 吟子 打樓
 うらけあうらけあうらけ 一以をすきあふうか 粗文
 秋乃をさる入ききききき 松 依
 そつとつとつとつとつとつ 松 依
 月嬌十六日結考くむまの 傳 葛所
 羅江



高はきや拾ひ集く葉の 薪

十法に何しとて

空に何しとて

ありとて

入るに何しとて

あり

空に何しとて

ありとて

ありとて

ありとて

ありとて

山何しとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて
ありとての空に何しとて

古此を無事とて

於先不_レ甘_レもや花_レ野_レの_レ蝶_レ也_レ也_レの_レ 雅_レ 墨

形_レ芒_レ葉_レや_レ葉_レく_レの_レく_レる_レる_レを_レひ_レそ_レ先_レ阿_レ波_レ 露_レ泉

岸_レく_レさ_レの_レ田_レ成_レ中_レか_レて_レ瀉_レの_レ了_レ 巢_レ居

の_レ戸_レま_レ修_レの_レ賦_レを_レと_レく_レく_レの_レ峰_レの_レ麻_レ 對_レ山

芒_レ那_レや_レり_レも_レき_レの_レか_レふ_レ似_レの_レ日_レ和_レ 秋_レ露

や_レと_レ際_レふ_レく_レの_レく_レわ_レく_レく_レを_レく_レ上_レ取_レ 未_レ葉

法_レ掃_レの_レ捨_レら_レれ_レも_レき_レ取_レ本_レ物_レく_レく_レか_レ 輝_レ山

中_レ逢_レく_レく_レ月_レお_レふ_レく_レ取_レ乃_レ山_レ 石

名_レ自_レや_レく_レ真_レの_レ何_レ能_レ昔_レと_レ利_レ 連_レ枝

一_レり_レと_レ此_レ芒_レ色_レ秋_レを_レ盡_レく_レ一_レ葉_レ也_レ 如_レ磔

秋_レや_レや_レ緝_レく_レく_レを_レ出_レの_レ仲_レ能_レく_レく_レ 塘_レ固

編_レの_レ夢_レ此_レ度_レく_レく_レ積_レく_レみ_レく_レ乃_レ吹_レ 鼎_レ古

曳_レく_レく_レを_レ曳_レく_レく_レ不_レ流_レを_レ啼_レ子_レ了_レ南_レ 首_レ云

百_レの_レ斗_レく_レ返_レ居_レも_レく_レ明_レふ_レ少_レ利_レ 坑_レ甫

山_レを_レ此_レ尾_レ成_レ引_レす_レる_レや_レ處_レ乃_レ中_レ 雲_レ卧

葉_レや_レ謹_レふ_レく_レ咳_レく_レ明_レう_レ川_レ系_レ 雪_レ鴻

於芭蕉菴真り

ぬれやきく障らるや松の中 對山
 多れき波たすまひ屋の 聖鳴
 新穀不城下北市の羅一りあ〜 山
 舟掛あ〜〜泣乃〜舟 鳴
 障子紙あねの目〜あ〜小き 山
 梅あ〜〜も片うんさ〜ん 鳴

葉字の紙は〜ま〜く医者のがまひらぬ 山
 何〜〜屋〜遠〜小〜島〜の物〜い〜 鳴
 ぬれきあねとねの〜も〜旗〜も〜旗〜 山
 多費〜〜〜けをほ〜〜小〜色 鳴
 上あのみ〜あ〜あ〜海〜〜あ〜乃〜未 山
 山〜あ〜〜〜〜も 踊〜〜好 鳴
 偏〜〜〜〜と〜〜〜旗〜持〜込〜新〜あ〜〜舟 山
 物〜あ〜〜〜す 汐 先 乃 風 鳴

鼓子ゆのそ葉程と知る口うそ
 野分もおまゝ湯屋枯青次
 登るそらうく眠る花は去
 牛より遊心美乃川舟
 花うらりと散けぬ物をもひ
 負走しそも今一級
 皂角子の土用芽あき一伐こ
 曳た修うそ網乃下さう形

山 鷗 山 鷗 山 鷗 山 鷗 山 鷗 山 鷗

ちとれ初くをふり連
 舟侍とくく髪のをさ久不
 捨子くくは葉吹込夕附日
 立く眠る不横 壱新 鴨
 喧荒ふくくま夢を引経一
 弛か男乃志の尻身上
 初秋の月小あ初る解の来く
 ちとけくまく病あ中

山 鷗 山 鷗 山 鷗 山 鷗 山 鷗 山 鷗

田徳米
徳松堂

砂坑のまき茹もいふ芋かいら
ろん表とあへんえくく麻泊山
おを押しれた古手申もろ買うり
湖きうゆる船りうん積山
執本懸山もされくく花雲山
ちをさうもくく巢かうくよ山

